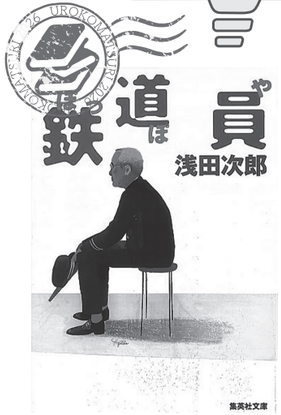
# 鱗祭 UROKO MATSURI 第９弾！

「芸術の秋」にちなんで編集部員おすすめの作品を一挙に紹介する「鱗祭（うろこまつり）」、第９弾。不朽の名作から、ライトノベル、新書、漫画に映画、オリジナルアニメまで……個性豊かな編集部員たちが今読んで欲しい 10 作品を、作中から厳選した一文とともにご紹介。この秋に楽しみたい作品は見つかりましたか？　秋が早々に去ってしまう前に、ぜひ覗いてみてください。　（みずおにぎり）

泣ける短編小説




## 鉄道員（ぽっぽや）　浅田 次郎（あさだ じろう）

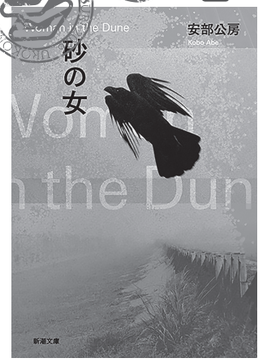
――その日の旅客日報に、
乙松は「異常なし」と書いた。

人は誰しも、自分の心を押し殺してでも守らなければならない使命がある。胸を引き裂かれるような悲しみを抱えながらも、表向きには何事もなかったかのように日常を回す。その孤独な覚悟の美しさは、時に私たちの心を揺さぶる。「俺ァ、ポッポヤだから、身うちのことで泣くわけいかんしょ」。雪深い終着駅の駅長・佐藤乙松は、娘が死んだ日も、妻が死んだ日も、日報に「異常なし」と書き続けた。鉄道員として、涙の代わりに笛をふかなければならなかった。しかし本当は、娘や妻の死に目にあえなかったことを後悔して生きてきた。定年前最後の冬、凍てつく駅に「二夜の奇跡」が訪れる。

本作は短編小説であるがゆえに、途中まで読むと話の向かう先が予測できてしまうかもしれない。だが、短編だからこそ、無駄がなく研ぎ澄まされた表現と、行間に込められた登場人物たちの想いがダイレクトに心に突き刺さる。そして読み終えたとき、そこには静かで確かな温もりが残っているはずだ。

本作は 1999 年に映画化されている。小説を読んだ後は、「どうやってこの短編を映画にしたのだろう？」と考えながら映画を緩衝するのもよいだろう。ＪＲ北海道の「幾寅（いくとら）駅」がロケ地になっているので、聖地巡礼も是非。　（りんだ）

ようこそ、砂の世界へ。




## 砂の女　安部公房（あべ こうぼう）

――砂のがわに立てば、
形あるものはすべて虚しい。

《砂――岩石の破片の集合体。時として磁鉄鉱、錫石、まれに砂金等をふくむ。直径２～1/16m.m.》砂の定義である。砂は鉱物でありながら、その特性はもっぱら流体力学に属するものである。かぜや流れに乗って、砂は自身の形を絶えず変えてゆく――。

男は砂が好きである。趣味である昆虫採集も兼ねて、海岸沿いの砂地の部落を訪れた。都会での忙しない生活からのささやかな逃避行。喧騒を離れて趣味に没頭する時間。その日、男は部落の老人の紹介で不思議な家に泊まった。家は砂地にできた穴の中に建っており、家の中では常に砂がふり続けている。家の主人である女は夜な夜な家の外に出て砂かきをする。砂かきをしなければ家は砂に埋もれていく。飯を食うにも砂よけのために傘をさす家で、男は家の主人である女と共に暮らす。

自由とは何か、不自由とは何か。果たして、それらは対なのか。砂の家で女と共に暮らし、非日常が日常になっていく過程で、男は自らの生と向き合う。

緻密で繊細な描写によって現実離れした砂の家の情景がありありと浮かんでくる。読んでいるだけで砂のざらついた質感が手に残るような、不思議で美しい描写の力で、常識が砂のように崩れていく感覚を楽しんでほしい。　（にしん）

歪みが織りなす、愛の群像劇




## デュラララ!!　成田 良悟（なりた りょうご）

――これは歪んだ物語。歪んだ恋の、物語。

東京・池袋。そこにはキレた奴らが集う。黒いコートの情報屋に、街一番の力を持つ取り立て屋。カラーギャングに切り裂き魔、闇医者に暴力団まで。そして都市伝説の「首なしライダー」――――。

池袋という街を舞台に、癖のある人間（？）達が織りなす「非日常」を、様々な人物の視点から楽しむことができる群像劇系ライトノベルである。それでいて縦軸に一貫性があり、物語の強烈さ、奇怪さ、面白さを余すことなく楽しむことができる。そして何よりもキャラクターが素晴らしい。ある者は「アニメ」に対して、ある者は「人間そのもの」に対して、またある者は「非日常」に対して――――皆が皆、何かに対して執着とも呼べるような愛を抱いており、これらが混ざり合って、歪みが幾重にも重なったミルフィーユを形成している。そう、この物語はどうしようもなく「歪んで」いるのだ。物語が進むにつれて、この歪みが起爆剤となり、彼らの非日常は予想もしない結末を迎える。ゼロ年代群像劇・唯一無二の傑作、ぜひ一度読んでみていただきたい。さぁ、みんな一緒に、デュラララ !!

折原臨也（おりはらいざや）というキャラが大好きでぇ……黒いコートの情報屋、趣味は人間観察、声は神谷浩史（かみやひろし）。こんなの中学生の時に読んだらそりゃ好きになりますよね。続編がしばらく止まってるのでマジで新刊希望してます、マジで。　（姜維）

拡大版 目から鱗 BOOK

過去の「鱗祭」はホームページの BACKNUMBER からご覧いただけます。右記 QR コードからぜひチェックしてみてくださいね。

はみだしすてーじ

就活をやめた気持ちいい
⇒そのアドレナリンが切れないことを祈ります　（経・４　匿名希望）

（悲しくなっちゃいませんように；編）

青春小説の金字塔

## 横道世之介（よこみちよのすけ）　吉田修一（よしだしゅういち）

### ――立派？　ぜ～んぜん。笑っちゃうくらいその反対の人。




毎日を楽しく、全力で生きる。すごく単純なことだけど、数えきれないほどの情報が飛び回り、目まぐるしく変化する現代を生きていると、つい忘れてしまいそうになる。他愛ない日常の大切さに気がつくのは、いつだってそれを失ったあとだ。

大学進学のために長崎から上京した青年・横道世之介。お人よしでマイペース、調子のいいところもあるけれどどこか憎めない彼は、さまざまな出会いと笑いを引き寄せる。勧誘を断れずに入部したサンバサークル、大学１年目で退学を決めた友人、教習所で知り合ったお嬢様との恋。うまくいくことばかりでも、何か特別なことが起こるわけでもないけれど、彼はいつも目の前の日々を楽しんでいた。世之介の存在が、周囲の人々の人生を劇的に変えるわけではない。それでも彼はそこに確かな足跡を残していく。そしてある日ふと、自らの人生にほのかな光を灯してくれた彼を思い出して、口元がほころぶ。何気ない日常の中で、彼が与えてくれたものは何だったのだろうか。

吉田修一さんは昨年一世を風靡した映画『国宝』の原作者。『横道世之介』も 2013 年に映画化されていて、吉田南総合図書館で DVD を観ることができる。書籍と合わせてぜひ。　（つくし）

子供向け雑誌から日中関係を読み解く!?

## 近代日本の対中国感情　金山泰志（かなやまやすゆき）

### ――憧れから敵対心、そして嘲笑へ。




昨今のインターネット空間に蔓延る外国人への排他的で差別的な言論。日本の隣国である中国はなかでも強い蔑視を向けられやすい国であるが、その一方では麻辣湯が空前のブームを巻き起こし、“ガチ中華”なるジャンルも話題になるなど、食文化を筆頭として中国文化が好意的に受容されているのもまた事実である。また、『論語』や『三国志』などといった古典は日本人によっても脈々と読み継がれてきた。こうした中国に対する二面的な評価はいつから生じたのだろうか？

民衆の対中感情をたどるうえで、当時の少年向け雑誌に着目しているのがこの本の特色だ。強くて立派な日本人と、弱くて卑しい中国人。この二項対立は誌面の漫画などに数多く見られる。「中国人」というキャラクターを面白おかしく描き、笑いの種・嘲笑の的・嫌悪の対象として子供らを楽しませるために利用し続けてきたことが、中国人への差別感情を植え付けた要因の一つであることは想像に難くないだろう。そして差別感情をコンテンツとして消費することが形を変えて続いていることは、今を生きる私たちが一番知っているはずである。

普段から娯楽として消費するコンテンツから当時の民衆感情を読み取る視点が新鮮で面白い。コンプラを無視した表現は刺激的なものではあるが、悪びれることなく用いられていた事実は忘れるべきではないでしょう。　（ふながた）

TikTok× 民俗学!?

## 中国 TikTok 民俗学　大谷亨（おおたにとおる）

### ――これが SNS 時代のフィールドワーク術だ！




中国の民間信仰と聞いて、すぐにイメージが思い浮かぶ人はそう多くないだろう。しかし、この本は中国のそんなイメージをすっかり覆してしまうに違いない。中国の厦門（アモイ）という街で日本語教師として暮らす著者は、休みとなれば各地へフィールドワークに出かけ、「民間信仰」の調査にせっせと取り組んでいる「日曜民俗学者」でもある。そんな著者が語る中国の民間信仰の実態は、まさに前代未聞、度肝を抜くものばかり。しかも、フィールドワークの手法はまさかの TikTok!?　未だ知られざる宗教大国・中国の素顔に刮目せよ！

中国の民間信仰を専門とする異色の民俗学者が書き上げる、前代未聞の民俗学ルポルタージュ。逆立ち張五郎（ちょうごろう）に、セクシー九尾狐（きゅうおこ）……？　そんな想像もつかないような神々たちは、筆者の軽快な筆致とともに、「こんな信仰アリ!?」と読者を魑魅魍魎（ちみもうりょう）の世界に誘ってやまない。実際のフィールドワークの過程で撮られた、180 点を超えるカラー写真も見物だ。

中国の民間信仰というテーマの異色さもさながら、調査のためならどんな冒険も厭わない著者の大胆さにはいつも驚嘆してしまう。これを読んだあなたはきっと、スマホ片手に珍神探訪に出かけたくなるはず！　（丿乀）

これであなたもカモられない！

## カモのネギには毒がある　甲斐谷忍（かいたにしのぶ）

### ――経済学はカネを考える学問じゃない。人を考える学問だ。




現代社会は１％の経済強者と 99% の弱者（カモ）で構成されているという。そんな現代で天才経済学者の加茂教授が、さまざまな姿に成りすましながら「フィールドワーク」と称して、新型マルチ商法やシニア向けビジネス、地方創生など、さまざまな分野で弱者をカモろうとする詐欺師たちを、自らが考案したカモリズム経済理論を用いて懲らしめていく。

弱者をマインドコントロールして作り上げられたマルチ商法組織を殲滅させたり、今まさにタイムリーな地震の被災地に現れる悪徳修繕業者と対峙したりと、現実に存在しうる詐欺師たちを、次々に加茂教授たちが騙し返していく姿は爽快である。また、ただ詐欺師たちを奇想天外な発想で騙し返すのではなく、その裏側の騙した側と騙された側の人間の行動原理を、行動経済学や心理学の理論などを用いながら、わかりやすく紹介されているため、読者も読みながら学ぶことができる。あなたもぜひ、加茂教授の人間経済講義を受けてみないか？

加茂教授が経済学の天才ゆえに築いた莫大な富を使いながら、奇想天外な手法で豪快に詐欺師を騙していく様が毎回スカッとして面白いです！　同時にカモにならないために日々勉強することの大切さを実感出来ます……　（あげぱん）

はみだしすてーじ

図書館に漫画はないんですか
⇒国立国会図書館にはこの日本の全ての出版物があるそうですよ　（文・1　ジーマー）

（行かれてみては；編）

はみだしすてーじ

ワールドカップ終わってサッカーにハマりそうです
⇒ワールドカップの熱狂の裏で私はバレーを応援してました　（工・2　匿名希望）

（アジア選手権も良かった；編）

古典導入

## あさきゆめみし　大和 和紀（やまと わき）




### ――わたくしはこの世と……この世に生きることをこんなにも愛している……！

ロリコン、マザコン、人妻好き……？　現代の感覚では受け入れがたいが、この漫画を読めばそんな悪いイメージが少しは払拭されるのではないだろうか。天皇の息子として生まれ、輝く美貌をもち、才能に溢れ誰からも愛される存在。そんな恵まれた生い立ちでありながら、光源氏からは憂いや孤独が滲んでいる。そして妻となる女君たちもまた、彼との恋を通じ嫉妬や葛藤、数奇な運命に振り回されていく。光源氏や姫君たちは幸せになれたのだろうか。彼ら彼女らの繊細な機微を追っていくと、姫君に共感するように、いつのまにか光源氏の虜となってしまうかもしれない。

あらすじはご存知かもしれないが、『源氏物語』の魅力はそれだけにとどまらない。かの本居宣長は、この物語の本質を「もののあはれ」と見た。愛、嫉妬、栄枯盛衰、因果応報……。千年の時を超えても変わらない人間の宿命。原文の繊細さを、美しく描き出したこの漫画が、あなたに「もののあはれ」の心を教えてくれるだろう。

私に古典常識と感受性を与えてくれた作品です。緻密で美しい作画とドラマチックな演出に引き込まれ、気づけば光源氏のことを好きになってしまうかも……！　（もち）

タクシードライバーと話したくなるかも！

## ODDTAXI　此元 和津也（このもと かづや）




### ――身の丈以上のものはいらないんだ

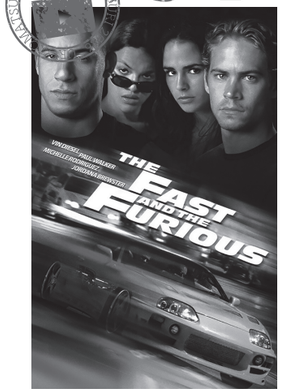
「お客さん、どちらまで？」少し偏屈で変わり者のタクシードライバー・小戸川（おどかわ）のもとには、日夜さまざまな客が訪れる。SNS でバズりたい若者、いまいち売れない芸人、街のごろつき、売り出し中のアイドル……。一見交わることのない人生を歩む彼ら。しかし、それぞれの日常で生まれた些細な選択や行動は思わぬところで交差し、やがて、ある女子高生の失踪事件へとつながっていく。

物語を彩るのは、小戸川とクセのある客たちによる軽妙な会話劇。淡々とテンポよくかわされる言葉の中から、登場人物たちが抱える欲望や見栄、執着といった歪みが顔をのぞかせる。そのどこか生々しい人間模様は妙に現実味があり、まるで一本のドラマを見ているようだ。そんな限りなく現実に近い日常の中で、時折ちらつく小さな「違和感」。何気ない一言も、背景の片隅で起きた出来事も、話が進むにつれて別の意味を帯び始める。そして最後までたどり着いたとき、それまで当たり前に映っていた景色さえ、まるで違って見えてくる。

勉強のお供として見始めたはずが、気づけば勉強そっちのけで一気見してしまいました。巧みなストーリー構成はもちろん、クスッと笑えるコミカルな会話もこのアニメの魅力です。ぜひ一度ご覧ください！　（しば漬）

ただのアクション映画じゃない!!

## ワイルド・スピードシリーズ




### ――友情と裏切り、そしてアクション

ＬＡにおいて若者たちが（違法の）ストリートドラッグレースに熱中していた。そしてそこから始まる友情関係。2001 年から 20 年以上シリーズ化され、大ヒットを記録した映画もまもなくシリーズの終了の時を迎えようとしている。

第１作以降、この映画は世界各地を舞台にしている。ある時はアブダビ、ある時はリオデジャネイロ、またある時は東京。あらゆる地域を飛び回り、走り回る。そこにはアクションやカーチェイスだけでなく仲間や家族との友情や絆もある。昨日までの敵が今日の友になり、仲間のために命を懸けて戦う姿がある。もちろんこの戦いは地上だけでは終わらない。空もあれば氷上もある。飛行機が出てくることもあれば潜水艦が出てくることもある。

ここまでくるともはやただの「車の映画」の一言だけではこの作品は語り切れない。シリーズを重ねるごとにスケールも大きくなってきた彼らの旅も終わりの時を迎えようとしている。彼らはいったい最後にどのような「道」を走るのか。過去にこのシリーズを見たことがある人も、一度も見たことがない人もこの「家族」の物語を見届けてほしい。

複数の作品がありますが個人的オススメは第９弾の Jet Brake です。カーチェイスもさることながら、一番好きな女優さんである澤井杏奈さんのアクションがすごい、、、どの作品も素晴らしいので気になった方はぜひ！　（とっきる。）

Pick Up Point

## 生協ショップに本を取り寄せよう！




▲生協アプリから開いた様子

気になっていたマンガ、資格勉強の本、買い逃した教科書……店頭でなかなか見つけることのできない本は、取り寄せサービスを用いるのが便利です。ここでは大学で利用できるサービスとして「HonyaClub」をご紹介します。

大学生協アプリの「**右下の「購入 / 利用」＞ EC サイト ＞ 書籍注文サイト**」からアクセスする、あるいは検索エンジンで「**honyaclub**」と検索すればアクセスすることができます。サイト内で注文したい本を検索して「買い物かご」へと追加し、氏名やメールアドレスなどの情報を入力したのち、受取店舗を指定すれば注文完了！　在庫商品であれば２～３営業日ほどで、予約商品であれば発売日には指定した店舗に届きます。店舗受け取りなので送料がかからないことに加えて、**組合員が各生協ショップで商品を受け取る場合は、店頭に並んでいる商品と同様に 10% off（あるいは 10% ポイント還元）のお得な価格で購入できる**のも嬉しいポイント。「取り寄せ」と聞いたら手続きが煩わしく感じるかもしれませんが、スマホつで誰でも簡単に利用できるサービスです。この機会に是非利用してみてくださいね。詳しくは公式サイトをチェック！

はみだしすてーじ

一週間に一日くらいは家から出ない日がほしい……
⇒分かりみが深い　（総・３　トランジスタ）

（そのために活動する日は予定を詰めたい；編）

はみだしすてーじ

最近自転車の取り締まりが厳しいです。
⇒取り締まられることなく卒業したいですね　（経・２　にしつる）

（罰金をその場でカード払いする夢を見ました。そんな訳ないのに；編）